

資格取得者2人を配置し 遺品整理サービスに本腰

流通が高齢化社会にらみ

引っ越しを主とする運送やバス・旅行事業などを手掛けるサービス業の流通株（倉吉市巖城、江原剛社長）が、遺品整理の業務に入れている。専門の民間資格を社員2人が取得し、競合する業者との差別化を図っている。

背景 景にあるのが、核家族化や生産年齢人口の都合地への流出に伴い、高齢者が独りで亡くなるケースの増加。遺族が近くにいない場合などは、遺品整理を葬儀業者や廃棄物処理業者などが請け負っている。

同社は従来、「暮らしサポート事業」と銘打った業務の一環で、行政からの依頼で独居者の遺品の整理・処分を引き受けている。現在は提携する不動産業者の依頼も加わ

り、月3回程度で年間500～600万円の売り上げがある。今後も需要が見込めるとして、専門性を高めてサービスを強化することにした。

社員2人が取得した資格は「遺品整理士」。一般社団法人遺品整理士認定協会（本部・北海道千歳市）が認定しており、講習を通じ、整理手順の知識だけでなく故人の持ち物を扱う仕事に対する考え方を習得する内容としている。

市下東川津町）に有資格者1人ずつを配置し、営業エリアとする鳥取、島根両県内の依頼に応える態勢とした。

自社ホームページにリンク

させる形で遺品整理専用サイトを立ち上げ、利用者拡大を図っている。江原社長は遺品整理を「成長産業の一つ」と捉えており、資格取得者を増やすなどして取り組みを強化する考えだ。

（堀江玄）



作業手順を確認する遺品整理士の資格を持つ社員＝倉吉市内